

開催趣旨（主催者）

本フォーラムは中日両国の深い友好と協力関係を背景に、中日両国の農林水産業分野における交流と協力を一層強化し、技術革新と産業発展を促進するため、日中農林水産業分野における協力を強化することを目指す。このフォーラムでは、中国と日本の農業関係者、専門家、関連企業の代表者などをお招きし、新時代の農業分野の開発動向、技術革新、農業農村の持続可能な発展などについて議論する。このイベントが日中農業協力を一層促進し、二国間関係の発展に寄与する重要なプラットフォームとなることを確信し期待する。

主催 一般社団法人日中農林水産業促進会
日時 2025年01月12日（日）14時00分～17時
場所 東京大学山上会館 東京都文京区本郷7丁目3-1
テーマ 日中農業発展交流フォーラム

参加者数 全体で150人程度
日中技交 2名（熊澤壽人、佐藤千秋）

交流会プログラム（日中同時通訳付）

（一）挨拶

日本側：

中華人民共和国駐日大使館洪志杰参事官

元厚生省・農林省副大臣 中島茂

JST 元理事長 沖村憲樹

千葉大学元学長 古在豊樹

日本グリーンフィールド工学会会長、千葉大学教授 高橋輝昌

日本工学アカデミー会員・東京農工大学教授 鄧明聡

日本農業協会東京支部代表

中国側：

元中国農業農村部部長 韓長賦

元中国農業農村部準部長 劉堅

中国農業農村部国際協力司 司長

中国人民大学元学長 紀宝成

国務院顧問 劉志仁

国家行政学院副院長 周文彰

南京農業大学元準学長 胡鋒

（二）調印式

（三）テーマ講演（案）：

日中農林水産促進会の紹介と今後の日中協力の展望 日中農林水産業促進会会長 劉恩璽

中国農業発展の現状と将来の展望 元農業省次官、国家農業科学技術起業家革新同盟会長 劉堅

日本の農業発展の現状と今後の展望 日本みどりと農業研究所理事、茨城大学名誉教授 中川光弘

（四）懇親会

上記プログラムの終了後、場所を移動し有志参加者による懇親会が開催された。

考察

中国は14億の人口を支えるため日本の優れた農業技術を取り入れたいと考えている。

日中技交は農業部門にも指導の機会が増えるかもしれない。今後の拡大、発展に期待したい。

最初に挨拶された大使館の洪参事官とは懇親会上で席が隣になりこの六月任期終了で中国に帰る等親しく話することが出来た。

一般社団法人日中農林水産業促進会設立式典

参加報告書



大使館洪志杰参事官挨拶

現状分析

1. 中国の現状
 - ・ 大規模農業の影響：土地の過剰利用や資源枯渇、土壌劣化が深刻化
 - ・ 都市化と環境問題：経済発展と都市化が農地減少や水資源不足を加速
 - ・ 技術革新：スマート農業やAIの導入で効率化が進展
2. 日本の現状
 - ・ 精密農業：ドローンやIoTを活用し、高付加価値の農産物生産を推進
 - ・ 人口減少：農業従事者の減少と高齢化が課題
 - ・ 環境技術：水資源管理や土壌保全で国際的評価が高い
3. 共通課題
 - ・ 資源の枯渇：水資源と土地利用の効率化が必要
 - ・ 気候変動：異常気象が農業と生態系に影響
 - ・ 持続可能なモデル：環境と経済発展の両立が課題
4. 日中協力の意義
 - ・ 技術と資源の融合：先進技術と広大な市場の相乗効果
 - ・ グローバル課題対応：気候変動や食料安全保障への貢献

日中協力により、農業と環境の持続可能性を大きく向上させることが期待されます。

日中における農業分野分析の現状例

以上